

武川衆フットパス第1回 武川衆：山高氏と神代桜



釜無川の右岸沿いの白州町、武川町、葦崎市北部（御勅使川より北）は古くから武川筋と呼ばれ、そこに点在する集落には戦国時代に活躍した武川衆と呼ばれる地侍の軍団が住んでいました。恵林寺宝物館に展示されている武田二十四将図には国衆として武川衆の名前が書かれています。4月からその武川衆の住んでいた地を訪ね、残された遺跡や逸話を探るフットパスを始めます。その第一回は武川町山高の高台に点在する山高氏ゆかりの高龍寺（山高氏菩提寺）、幸燈宮（山高氏神）、実相寺（山高氏居館跡）を訪ねます。

ちょうどこの時期は実相寺の神代桜や山高カタクリ群地のカタクリも見頃になりますのでお花見も楽しめます。

- ・開催日 2017年4月6日(木)
- ・コース 高龍寺 → 山高氏墓所 → 幸燈宮 → 実相寺 → 神代桜 → 山高一本桜 → 山高カタクリ群生地 → 高龍寺
- ・距離 約4キロ
- ・集合 9時 高龍寺駐車場(山梨県北杜市武川町山高2480)
- ・解散 12時頃 高龍寺駐車場
- ・参加費 会員 300円 一般 500円
- ・持ち物 飲み物・雨具・ウォーキングダイアリー・保険証・その他
- ・担当 重田 (090-3687-9343) サブ 小林 (光) (090-4676-2067)

武川衆

甲斐源氏一条忠頼の死後甥の武田信長が一条氏を継ぎ、その孫時信が守護職に任じられその男子を武川筋の各所に封じ、その土地の豪族として土地の名前を苗字として称するようになった山高氏、青木氏、横手氏、柳澤氏等

山高氏

時信の長男義行の子信方が山高に封じられ以後山高氏と称した武川衆の筆頭
武田家に仕えた武川衆の一員として多くの戦いで手柄を立てたが、武田家が滅亡した天正壬午（1582年）以降徳川家康に仕えその後武川の地を離れて徳川の旗本として江戸時代を生き抜いたその子孫は幕末にはパリ万博へも派遣され、明治政府でも重用されて京都博物館館長を務めた

高龍寺(山高氏菩提寺)

天文元年（1532年）、山高信之によって山高氏の菩提寺として開基された
元は真言宗の寺だったが後に曹洞宗に改宗し親栄山高龍寺と称したが、寛文年中に現在の鳳凰山高龍寺と改めた
境内の山高家代々の墓所には開基した山高信之の墓をはじめとする墓が並んでいる

幸燈宮(山高氏氏神)

祭神は大己貴命、新羅三郎義光、わかひるめの命
正治年中（1200年頃）に山高氏の祖一条忠頼がこの地に居館を構えた時に新羅三郎義光を祀る唐土大明神を建立したが、大武川に近い唐土という場所にあったため度々大武川の氾濫におそわれるので文化2年に台地の上の現在の場所に移された
わかひるめの命についての鰻伝説によって山高村の人々は今でも鰻を食べない習慣を守っているらしい

実相寺(山高氏居館跡)

実相寺の由緒書によると「実相寺は伊豆守実氏が身延山第五世鏡円阿闍梨日台上人の弟子となり実相院日応と名乗り、山高村大津にあった真言宗の寺を訪れ、住んでいた真理法印と法義を論じ合い論破して寺を譲り受けて日蓮宗に改宗して大津山実相寺と称したのが始まりです
永禄4年の川中島の合戦にあたり武田信玄が蔦木越前守を遣わし武運長久の祈願を命じ永代祈願所として一条次郎忠頼の居館跡であった現在地を寄進し移転、現代に至っている」となっている
神代桜から東へ続く桜並木の盛り土部分が当時の土塁の遺構と伝えられている
境内にはここを墓所と定めた蔦木氏代々の墓が立ち並んでいる

蔦木氏

諏訪地方の豪族弥左衛門盛正が武田氏に仕えて武川村三吹知見寺の領地を与えられ知見寺と名乗って武川衆の一員に加わったのが始まりで、後に蔦木氏と改めた
その後徳川家の旗本として江戸で続いたが宝永3年に嫡子五郎七が3歳で亡くなり武川衆出身の旗本蔦木家は絶えた
五郎七の弟弥左衛門は母に連れられて旧知行地である牧原村に隠棲し成人した後浪人格に列せられ名字帯刀を許された